物容器に記されていた。この井戸は、出土した瓦器椀の形式から一一世紀末から一二世紀前葉と考えられる。

8　木簡の釈文・内容

(1)　061

「□〔永カ〕□□〔十カ〕二月廿三日福□〔殿カ〕□□

曲物の径は三七・〇㎝、高さ二五・〇㎝である。一一世紀末～一二世紀前葉で「永」ではじまる年号には「永保」（一〇八一～一〇八四）、「永長」（一〇九六～一〇九七）、「永久」（一一一三～一一一八）の三つがあり、そのいずれかにあたる。

（西村公助）

兵庫・吉田南遺跡

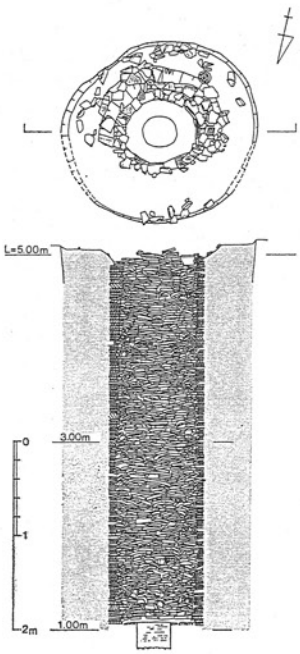
1　所在地　兵庫県神戸市西区玉津町・明石市北王子町
2　調査期間　一九八七年（昭62）一二月～一九八八年二月
3　発掘機関　兵庫県教育委員会
4　調査担当者　岡崎正雄・村上賢治・平田博幸・高瀬一嘉
5　遺跡の種類　郡衙跡・集落跡
6　遺跡の年代　三～一三世紀
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

吉田南遺跡は、明石川下流右岸の完新世段丘及び旧河道に位置する。一九七五～八〇年にかけて、神戸市教育委員会、吉田・片山遺跡発掘調査団が、神戸市玉津環境センター建設に先立ち数次にわたって発掘調査を実施しており、弥生時代から鎌倉時代にかけての複合遺跡で、奈良時代後期から平安時代前期にかけては明石郡衙（ないしは明石駅家）に比定される建物群や井戸

（明　石）

があり、井戸からは木簡が出土した。今回、隣接地の兵庫県農業試験場移転にともない跡地利用計画が検討される中で、吉田南遺跡の範囲、遺跡の種類及び遺構面数などを把握するため確認調査が一〇万㎡を超える面積で実施された。その結果、明石川で破壊された約二万㎡を除き、遺跡が広がることが判明し、弥生時代の水田跡から始まり、弥生時代後期〜古墳時代前期の集落跡や井堰をともなう溝、古墳時代中期の初期須恵器・韓式軟質土器・土師器をともなう溝、古墳時代後期の製塩土器や飯蛸壺と竪穴式住居、白鳳時代・奈良時代・平安時代前期の掘立柱建物群や大溝、平安時代中期の播磨国府系瓦や飾板をともなう井戸、鎌倉時代の瓦積井戸・掘立柱建物群・木棺墓などの遺構が検出され、遺構面数も多く確認された。なかでも、奈良時代の土馬祭祀が明石川際で行われており、官衙の範囲が大きく広がる。また、七世紀代の円面硯や土器をともなう掘立柱建物跡などから、明石郡衙の成立時期が遡る可能性がある。そして、遺物出土量も多く、整理箱で約二〇〇箱程で、官衙にともなう遺物としては、白鳳時代の須恵器、土師器と円面硯、奈良時代の大型の須恵器や土馬、平安時代の緑釉陶器や瓦などがある。

木簡出土の井戸（ＳＥ〇一）は、瓦積井戸で掘形径約二ｍ、井戸の内径約七〇㎝、深さ四・二ｍ以上で底には石敷、水溜として径二〇㎝、深三〇㎝の曲物がある。積み上げられた瓦は、軒平瓦・軒丸瓦・平瓦・丸瓦・鬼瓦と多様で、一二〇段以上積まれていた。掘形の裏込めにも軒丸瓦が多く使われており、調査は実測終了後、軒瓦の拓本と型取りを行い、井戸を保存するため埋戻しを行い、瓦を含めた詳細な井戸の検討は今後の問題とする。井戸内の転落瓦などから、軒瓦は明石市林崎三本松瓦窯・高砂市魚橋瓦窯・神戸市神出窯産の瓦が多く、平安宮大極殿・東寺（再建）・尊勝寺・鳥羽離宮・法華山一乗寺出土の瓦と同笵瓦を含め、類似する一四種類の瓦がある。時期は新しいもので一二世紀末〜一三世紀初の年代を与えられるもので、井戸内出土の土師器皿や白磁などは一三世紀後半以降を示し、井戸は一三世紀前半以降に掘られた。木簡は井戸検出面から中層二七〇㎝（絶対高二・三ｍ）で、曲物底板や土器とともに出土した。一三世紀後半で、吉田南遺跡の存続の最後の時代を示している。



ＳＥ01

8　木簡の釈文・内容

(1)　「〈□□□□」

198×22×1　032

墨の痕跡はみとめられるが、判読はできない。木簡の形状は、既報告の兵庫県多紀郡丹南町初田館跡の鎌倉時代井戸出土の呪符木簡四点と似ており、おそらく井戸を埋める際の呪符木簡と推測する。

なお、木簡出土の瓦積井戸は、法隆寺大宝蔵殿西側広場井戸SE四八五三や法隆寺東院井戸SE二五〇九の鎌倉時代井戸と似ており、東院の井戸SE二五〇九は瓦が一二〇段以上積まれ、深さも四・一m以上とされ、形状は方形である点を除くと、類似する井戸である。吉田南遺跡の積み上げられた瓦は、吉田南遺跡では屋瓦として使用されたものとは考えられない。平安時代終末・鎌倉時代初頭の瓦が、何故、井戸に転用されたかは不明である。ただ、ある一定期間、数多くの瓦が近くに集積されていたものと考えられ、明石郡衙が衰退していたとしても、播磨国司の東寺再建にかかわる造瓦の力を認めるにおいて、東播系瓦の京への積み出し、管理の拠点として吉田南遺跡が関与していたと考えるものである。

（岡崎正雄）

9　関係文献

木簡学会『木簡研究』創刊号（一九七九年）
同『木簡研究』第九号（一九八七年）

兵庫・小犬丸（こいぬまる）遺跡

1　所在地　兵庫県龍野市揖西町小犬丸
2　調査期間　一九八六年（昭61）一月～三月
3　発掘機関　兵庫県教育委員会
4　調査担当者　山下史朗・山上雅弘
5　遺跡の種類　駅家跡
6　遺跡の年代　奈良～平安時代
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

小犬丸遺跡は、早くから古瓦の出土地として知られ、昭和初期には小犬丸廃寺として周知されていたが、昭和四〇年代になって今里幾次・高橋美久二氏らの研究により、『延喜式』にみえる布勢駅家跡と考えられるようになった。

（竜野・上郡）

一九八三年度に至って、遺跡の中央部を横切る県道姫路・上郡線の拡幅工事に際して発掘調査が実施され、築地塀に囲まれた複数の瓦